

令和3年度「あいち学生観光まちづくりアワード」ワークショップ

講師・加藤幹泰氏への質問及び回答

(重複している質問等はまとめさせていただきました)

質問1 with コロナとはどれくらいコロナを考慮した企画提案をするべきなのか。食べる・泊まる・巡るというそれぞれの観点を考える中で、どのようなことを意識する必要があるのか。どの程度案に対する将来性を考えるのか。
⇒どの観点からでも、新型コロナウイルス感染症が流行している中で、ある程度実現が可能と思われる企画提案が望ましいです。

質問2 with コロナで安全に宿泊するためここまでなら許されるという上限や具体例はあるか。
⇒上限は各自自由にお考えください。具体例として、例えば一人でも楽しめるツアーコースの醸成などが挙げられます。

質問3 企画を詰める際にどのような点に気を付けているのか。また、詰め込みすぎてしまうが、どの程度が望ましいのか。
⇒できるだけ具体的に。また「自分も本当に行きたい」内容の企画なのかを大事にしてほしい。

質問4 まちづくりをする上で大切なことはなにか。何か参考にしていることはあるのか。まちづくりを考えるうえで一般的に見落とされがちなことはあるか。
⇒まちづくりで大事だと思うことは、まちの人が好きなまちになっていること。
他の街の好事例より、自分のまちの課題をできるだけたくさんの人に聞き、自分ごととして感じるものから取り組むこと。

質問5 ツアーを考えると、観光者側の目線になりがちだから、来てもらう側の目線になるにはどうしたらいいか。
⇒来てもらう側の人に話を聞きに行く。最近は一生涯に一度より、何度も来てくれることが嬉しいようです。

質問6 地域の魅力を見つけるためのコツはどんなことか。
⇒魅力はさまざま、人それぞれ。自分の興味や好きなことを視点にもち、地域をみると「自分にとって」の地域の魅力は見つかる。

質問7 大ナゴヤツアーズは東海エリアのまちの魅力を「体験」「学び」「見学」「まち歩き」などを通して楽しめる体験プログラムツアーであるにも関わらず、ツアー名がナゴヤであるのは、何か特別な意図があるのでしょうか。
⇒「東海」って言葉が自分はしっくりこなかった。馴染みがない。
「大」きな名古屋圏域(生活圏)という意味で「大ナゴヤ」という言葉をつくりました。